

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第 23 号】

発行人 町田 修

事務局 長野市西長野 6ノロ

信州大学教育学部内

TEL・FAX (026) 238-4370



心のよりどころとなる 同窓会の発展・充実を

同窓会会長 町田 修

今年もまた大きな春が巡ってきました。と同時に善光寺の御開帳が賑やかに始まり、全国各地から大勢の参拝客を迎えることができました。恒例になった「長野マラソン」でも、八千余名の出場選手で大きな盛り上がりを見せました。六月には信州大学創立六十周年記念式典が盛大に行われ、一時代の移り変わりを実感するひとときでもありました。

金融危機の大きな荒波をまともに受けた昨今の社会情勢の中、教育界も急激な改革が進んでいます。教育現場の取り組みの難しさに、発想の転換をしていく必要を感じています。とは言え私達教育を指した者にとって、次世代を担う子どもの育ちを願いつつ、今も精一杯の営みを続けています。

確かに教育現場では乗り越えるべき諸課題が山積しています。しかし、信州の地で机を並べ教育を語り合った仲間同士として、また信州をこよなく愛する仲間同士として、共に各地に根付いて逞しく生き

る子供達の指導に当たることができ喜びは、我々同窓生の縦に横にと生まれた絆として感じとることができます。

私も縁あって役員となりました。次期役員の依頼を受けた折「同窓会ってあったの?」「会費を納めていたのだろうか?」:等々何ともお恥ずかしい限りでした。歴代の会長先生始め諸先輩方の同窓会創設への思いやご苦労に対し誠に申し訳なく思いました。そこで、改めて信州大学教育学部卒業生は全員が同窓会員であることを確認し合いたいと思えます。大学のあり方も見直されつつある昨今、学部で学んだ当時の情熱に満ちた自分達に立ち返り、同じ学び舎で共に過ごした一時代を語り合おうではありませんか。学生時代に様々な出会いが生まれ、共に生きる喜びを味わい、新たな自分を発見してきた事実、後の自身に大きな力となっています。不易なる教育への願いを貫くためにも、更なるいっそうの

同窓会発展・充実へのご支援・ご協力をお願い申し上げます、挨拶いたします。

信州大学創立六〇周年記念式典開催

「地域に根ざし、世界に拓く」を掲げて歩みつつある我が母校、信州大学が本年六月で六〇周年を迎えました。長野県の豊潤な自然風土のもとで、その歴史や伝統、そこにおける文化・産業・医療・教育と結び合い、響き合いながら「知の拠点」として十数万人を越える人材を送り出してきました。

さて、六月六日には、長野県松本文化会館において、記念コンサート、記念式典、祝賀会が開催され、教育学部同窓会からも代表者ほかの参加がありました。そのほか、同月を中心に、次のような記念事業が催されました。

- 創立六〇周年記念シンポジウム
「新しい知のあり方と大学の未来」
 - 創立六〇周年記念絵画展
「よみがえる名画〜旧制松本高等学校の遺産」
 - 創立六〇周年記念「小谷コレクション展」
 - 学士山岳会六〇周年記念事業「ペリ・ヒマール登山隊」「アンナプルナ山群一周トレッキング隊」等の派遣ほか
 - 創立六〇周年記念参画事業 映画鑑賞会
 - 創立六〇周年記念展示会
「藤田敬コレクション『教科書で見たあの化石』」
- なお、教育学部関係では、前記の記念コンサートにおいて、池田京子教授(ソプラノ)、附属松本小・中学校の児童生徒によるソロ・合唱の披露がありました。また、記念絵画展の関連イベントの講演会「美術教育の側より見る、信大附属図書館絵画コレクション」の講師を岡田匡史教授が務められました。

第二十一回 同窓会 通常総会 報告

平成二十年度の同窓会通常総会は、八月十一日(月)、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、四十四名の出席を得て開催された。

寺島正友幹事の進行のもと、西脇育子副会長の開会宣言、町田修会長の開会挨拶の後、議長団に、小池美知夫、竹内正俊、議事録署名人に、久保田博、古厩一の各氏を選任、書記に安達仁美、岩田靖の各氏を任命して議事へと移り、次の三議案について審議された。

○第一号議案

平成十九年度事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十九年度事業について、別府桂幹事より平成十九年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がされた。また、竹松徳門監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

○第二号議案

平成二十年度事業計画書(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成二十年度事業計画(案)について、別府桂幹事より平成二十年度歳入・歳出予算(案)についての説明があり、全員一致でこれを承認した。

(平成二十年度事業大綱)

一、同窓会報(第二十二号)発行、会員、特別会員への郵送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助、学生課外活動への補助

三、学部後援 学部・大学院充実に向けての援助
四、組織充実 支部組織の強化、地区代表を通して卒業生の会費未納者への納入依頼、退職新任校長未納者への納入依頼、在学生未納者への納入依頼
五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」への参加、総会のあり方・基本財産の運用、個人情報を取り扱い、HPの充実



第21回同窓会通常総会 会長挨拶



記念講演会 武者一弘氏

平成19年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成19年 4月1日
至 平成20年 3月31日

歳入合計額 5,951,628円也
歳出合計額 5,472,741円也
差引残額 478,887円也 翌年度へ繰越

歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	841,196	841,196	0	
2 会費	5,760,000	5,080,000	△680,000	254名入金
3 雑収入	20,000	30,432	10,432	利子・御祝儀
歳入合計	6,621,196	5,951,628	△669,568	

歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	580,000	333,792	△246,208	総会・役員会等
2 事業費	1,080,000	985,914	△94,086	会報・学部後援等
3 事務費	2,203,000	2,150,560	△52,440	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑費	200,000	196,475	△3,525	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6 予備費	752,196	0	△752,196	
歳出合計	6,621,196	5,472,741	△1,148,455	

○第三号議案

役員交代について

町田会長より、新本部理事として安達仁美、交代した地区理事として、小林和人(飯山下水内)、古厩一(塩筑)の各氏が紹介された。

質疑では、これからの魅力ある同窓会づくりに対する意見が交わされた。

議事終了後、臨席の岩永恭雄氏(教育学部長)より祝辞をいただき、深沢弘二副会長の閉会宣言で総会を終了した。

ご挨拶

教育学部長

岩永恭雄



同窓会および同窓会員の皆様には日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、深いご理解と温かいご支援をいただいておりますことを深く感謝いたします。

この四月から教育学部卒業生が二名、学部教員として採用されました。本学部に占める信大教育学部出身者も多くなり、皆さん学部の発展に貢献しているのは大変喜ばしいことで、在校生にも良い刺激となるので、これからの活躍がおおいに期待される所です。

教育学部キャンパスの施設も最近はいくつかの箇所が改修工事が行われましたが、今年度は管理棟の耐震改修工事が四月から始まり、十月には新しい姿を見せてくれます。施設整備には毎年予算要求をしていくところですが、なかなか要望通りにはいかないなか、今回は自然科学棟の新築以来久ぶりの大工事になります。今後も老朽化した施設の改修のための予算要求をしていく予定です。

今年度の大学全体の話題としては、新しい学長が五月に選出されたことと、創立六〇周年を迎えたこととがあります。新学長に就任される予定の山沢清人教授は工学部長を務められた方で、その行動力がおおいに期待される所です。来年度から始まる第二期中期計画を作成し、それを達成していく責務を負うこととなります。創立六〇周年の記念行事は六月六日に松本で実施され、記念コンサート、記念式典と祝賀会が開催されました。教育学部は師範学校

時代から数えれば百年を越える歴史があり、長野県内に多くの教員を輩出してきましたが、将来的には信州大学の中で教育学部が果たすべき役割を第二期中期計画の中でも考えていく必要があると思われれます。

この第二期中期計画は平成二二年度から六年間に渡るもので、信州大学の将来を決定することになりますが、国立大学法人評価委員会には組織の見直しに関する視点として、「教員養成系学部における入学定員や学部組織等の見直しが必要である」と指摘しています。これに応えるべく、学部教育組織の改組、それに伴う大学院の再編と教員組織の改組を計画し、現在ワーキンググループで構想を練っている所です。その骨子は、第一に小学校教員養成の特色あるカリキュラムを構築して中学校教員の養成との違いを明確にするのと、小学校・中学校の連携と中学校・高等学校の一貫教育に携われる教員の養成を視野に入れていくこと、第二に特別支援学校教員の再教育と養成を充実させること、第三に現在ある二つの新課程（零免課程）を充実させて存続することです。

前記の国立大学法人評価委員会による見直しの視点には、附属学校園との本来的な連携と利用法の再検討も掲げられています。とりわけ信州大学教育学部では、昨年度・長野小学校、また今年度から長野中学校の学級減が実施され、教育実習を附属学校園だけで行うことができないう状況になって、実習協力校を見い出す必要性に迫られています。今年度は市立長野高校で六名の学生の教育実習を実施することになりましたが、学校教育教員養成課程の教育実習としては初めての事です。

第二期中期計画の達成状況如何では、地方大学としての信州大学の存続が問われることとなりますので、教育学部の今後の発展のために、引き続き同窓会のご支援をお願いするものです。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成二〇年度～平成二一年度新転任教員】

田中 敏先生（教育科学講座）
田中江扶先生（言語教育講座）
茅野公穂先生（理数科学教育講座）
伊藤冬樹先生（理数科学教育講座）
大原明美先生（生活科学教育講座）
蛭田 直先生（芸術教育講座）
宮地弘一郎先生（教育科学講座）
鈴木俊太郎先生（附属教育実践総合センター）

【平成二〇年度転退職教員】

吉田 稔先生（理数科学教育講座）
平成六年四月一日着任、退職
鶴飼照喜先生（社会科学教育講座）
平成四年四月一日着任、定年退職
伊藤武廣先生（理数科学教育講座）
平成二年四月一日着任、定年退職
癸生川武次先生（理数科学教育講座）
平成二年九月一日着任、定年退職
田沢紘一郎先生（理数科学教育講座）
昭和四三年四月一日着任、定年退職
糟谷英勝先生（スポーツ科学教育講座）
昭和四一年四月一日着任、定年退職
田巻義孝先生（教育科学講座）
昭和五二年四月一日着任、定年退職
益地憲一先生（言語教育講座）
平成三年四月一日着任、転職
渡部かなえ先生（スポーツ科学教育講座）
平成七年五月一日着任、転職
今田里佳先生（附属教育実践総合センター）
平成一一年八月一日着任、退職

学部の近況から

組織的な大学院教育改革推進プログラム「授業研究アリーナで共創する『臨床の知』—教科専門と教科教育のチーム指導体制で高める現職教員の教科指導力—」の取り組み

代表 岩田 靖 (スポーツ科学教育講座)
島田 希 (大学院GP担当)

信州大学大学院教育学研究科は、平成十九年度に「組織的な大学院教育改革推進プログラム(平成二十一年度より本名称に変更)以下、大学院GP)」に採択されました。本プログラムは、「授業研究アリーナで共創する『臨床の知』—教科専門と教科教育のチーム指導体制で高める現職教員の教科指導力—」をテーマとするもので、平成十九年度から二十一年度までの三年間の取り組みとなります。

本プログラムは、専門教科の学問的知識・能力に裏打ちされた授業研究により、アクション・リサーチができる現職教員の授業展開力を一層向上させる大学院を実現することを目的としています。アクション・リサーチとは、実践者自身が、実践の課題を発見し、その解決へと自律的に取り組む継続的かつ螺旋的な実践研究の方法論を指しています。本プログラムの主要な対象である現職教員の専門性開発をめぐっては、近年「教員免許更新制」をはじめとして様々な動きが活発化しています。それに加えて、地域・保護者からのニーズが多様化するともに、知識社会に応じた新たな授業の実施が求められるなど、教師はこれまで以上に高度な専門性を身につける

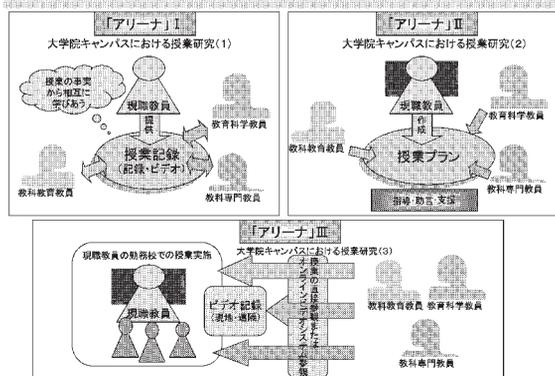
ることが必要とされています。

このような状況をふまえ、本プログラムでは、「授業研究アリーナ」と呼ばれるチーム指導体制を構築し、現職教員の専門性向上を支援・促進していきます。授業研究アリーナとは、教科専門教員・教科教育教員・教育科学教員が連携・協力することによって、現職教員の問題意識やニーズに応じた多面的な指導を実現することを目指すものです。そこでは、教科専門教員や教育科学教員の「理論知」、教科教育教員の「実践知」、現職教員の「経験知」が交流し、響きあうことによって、新たな「臨床の知」を生み出していくことが期待されています。

具体的には、授業の設計・実施・省察の過程に、大学院教員チームが協働的に参与することを通じて、教科専門教員は、その教科の基盤となる学問領域の基本概念・方法の観点から、教科教育教員は、教科の目的論、内容・方法論、教材論の観点から、教育科学教員は、児童・生徒の発達、教育方法論、学級論や現代的な教育課題の観点から、授業案を検討し、授業を観察し、授業過程を分析していきます。本プログラムの実施によって、現職教員は、実践者でもあり、研究者でもあるという立場から、高度な専

門性に支えられた自己の教育活動を対象化し、同僚教師や研究者と協働しながら、教育実践研究を進めるための力量を身につけていくことが期待されています。

「授業研究アリーナ」の運用の模式図



また、本プログラムの運営体制として、五つの部会からなる授業研究アリーナ常任委員会(授業研究部会、アクション・リサーチ部会、地域連携部会、ティーチング・ポートフォリオ部会、FD・フォーラム部会)を構成するとともに、平成二十年四月には、助教(GP)一名を採用し、円滑なプログラム実施に取り組んでいます。以下、これまでの取り組みと今後の予定をご報告いたします。

(1)平成十九年度の取り組み

プログラムの初年度には、本格実施に向けて、現状把握・課題の検討や環境整備を行いました。具体的には、平成二十年一月十二日(土)に、ホテルJALシティ長野を会場として、大学院GP第一回フォーラム「授業研究アリーナで共創する『臨床の知』」を行いました。本プログラムの概要説明や問題提起が行われた後、教育学研究科各専修の特色や課題に関する情報交換を行う第一分科会と附属学校園との連携について話し合う第二分科会に分かれ、ディスカッションが行われました。ここの話し合いによって、チーム指導体制の構築・運用のための方向性と問題点を参加者間で明確化し、共有することができました。また、平成二十年度以降の授業研究アリーナの構築に備えて、遠隔授業研究システムを導入・構築し、試験運用を行いました。このシステムを導入・活用することによって、大学キャンパスから附属学校園の授業を観察することや大学院教員と研修教員がオンラインミーティングを行うことが可能になり、緊密な協力関係の構築が促進されることとなります。

(2)平成二十年度の取り組み



一日目には、本学生涯スポーツ課程野外教育専攻の平野吉直教授に講師をお願いし、ワークシoppが行われました。本ワークシoppは、授業研究アリーナの充実に際しては、大学院教員および大学院

プログラムの二年目には、初年度に整備した環境・機器を活用して、授業研究アリーナの本格的な実施に取り組みました。また、授業研究アリーナの概要やその意義をより広く発信し、共有化を図るためのFD活動にも力を注ぎました。

① 授業研究アリーナの構築

平成二十年度には、現職教員が所属する四つの専修（数学教育・美術教育・保健体育・家政教育）と附属学校園に所属する研修教員を中心に、十二の授業研究アリーナが構築されました。各アリーナでは、教科専門教員と教科教育教員の連携はもちろんのこと、領域を超えた協力体制も構築され、現職教員のニーズに応じた指導体制の構築・実践への取り組みが行われました。また、前年度に試験運用した遠隔授業研究システムの本格運用を開始しました。

② 大学院GPフォーラムの実施

平成二十年五月三十一日（土）～六月一日（日）にかけて、国立妙高青少年自然の家において大学院GP第二回フォーラム「体力・知力で『感じる』人と授業」が開催されました。一日目には、本学生涯スポーツ課程野外教育専攻の平野吉直教授に講師をお願いし、ワークシoppが行われました。本ワークシoppは、授業研究アリーナの充実に際しては、大学院教員および大学院

生、附属学校園教員間における信頼関係の構築とコミュニケーションの深まりを実現していくことが重要であるという問題意識のもとで実施されました。そして、二日目には、大阪教育大学教育学部の木原俊行教授を講師として、講演



会「教師によるアクション・リサーチの充実に向けて」が行われました。講演では、教師の成長を促すアクション・リサーチの方法・トピック・可能性と課題についてのレクチャーが行われるとともに、現職教員のアクション・リサーチに、大学院教員がいかに協力していくのかという点について、具体的にお話頂きました。

また、平成二十一年三月七日（土）には、ホテルサンルート長野を会場として、大学院GP第三回フォーラム「大学院における協働的な授業研究―チーム指導体制の構築に向けて―」が開催されました。本フォーラムでは、平成二十年度の実施報告が行われるとともに、各授業研究アリーナの具体的な実施の様子を報告するポスターセッションが行われました。途中のコーヒープレイクにおいても、参加者間の情報・意見交換が尽きることなく行われるなど、ポスターセッションは大変な盛り上がりとなりました。また、ポスターセッション後の対談「授業研究アリーナの可能性と実際」では、チーム指導体制の

構築に取り組んだ大学院教員から、その意義や取り組みを通じて感じた課題について率直な意見・感想が述べられました。フロアからも、大学院GPへの期待やさらなる充実に向けた提案が出され、それらに参加者間で共有化し、盛況のうちに閉会いたしました。

③ 大学院GP連続学習会の実施

上記のようなフォーラムに加えて、より率直に各専修における取り組みを情報交換し、そのさらなる充実にについて話し合うための場として、平成二十年度より大学院GP連続学習会を実施し始めました。授業期間中の水曜日午後四時半から六時まで、毎月一回のペースで実施しています。平成二十年度には、合計八回の学習会が行われました。毎回二十名から五十名程の参加者とともに、ざっくばらんなディスカッションがなされました。各回のプログラムは、授業研究やアクション・リサーチに関するレクチャーから、各専修における授業研究の実践報告、各授業研究アリーナの中間報告まで、多岐にわたっています。これらの実施によって、日頃の教育実践・活動を改めて問い直すことができました。また、これらの様子は、DVD化・ライブラリ化されており、常時参照可能な状態となっています。

(3) 平成二十一年度の予定

本プログラムの実施は、平成二十一年度が最終年度となります。前年度の授業研究アリーナの構築・運用、大学院GPフォーラム、大学院GP連続学習会の実施をさらに充実したものとしていきたいと思っています。また、本年度十一月下旬には、海外から研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催する予定となっています。これらを通じて、本学大学院教育のさらなる充実に目指すとともに、それを実現・継続するための体制づくりに取り組んでいく所存です。

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助しています。

応募希望者は所定の様式（「研究補助願及び研究概要」）にしたがって、同窓会事務局（〒三八〇一八五四四 長野市西長野六〇〇）にお申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい（研究補助は十名までとなっており、受付可能かどうかの確認のためです）。

平成二〇年度助成交付の研究テーマ

- ①後藤 聡（安曇野市立豊科北中学校）
「かわりあい、ともに学び、高めあう生徒の育成―つける力と評価を明確にした授業づくり―」
- ②中上 敬介（上伊那郡中川村立中川西小学校）
「子ども達が学習材に主体的に関わり、社会的事象の見方・考え方を深めていく社会科学習のあり方―学習問題の成立を大切にしたい授業作り―」

- ③中島有美（安曇野市立三郷小学校）
「思考力を育てる発問のあり方」
- ④宮澤剛彦（長野市立松ヶ丘小学校）
「裏山のお気に入りの木」
- ⑤柏木健一（長野市立柳町中学校）
「立体視を用いた植物の識別用写真の撮影方法の研究」
- ⑥竹松春奈（長野市立朝陽小学校）
「小学校における英語活動のあり方」
- ⑦松土智美（長野市立櫻ヶ岡中学校）
「差別を見抜き、差別に立ち向かう判断力と、実践力をもった生徒を育てる指導のあり方」
- ⑧三溝清洋（上高井郡小布施町立小布施中学校）
「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えるように話す力を高める指導はどうあったらよいか」

- ⑨若林幸裕（下高井郡山ノ内町立南小学校）
「自ら問い続けながら豊かな見方・考え方が育つ社会科学習はどうあったらよいか」
 - ⑩山田 晋（長野市立大豆島小学校）
「友だち同士認め合える人間関係作りを目指して」
- 以上が、平成二〇年度における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これらを大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いたします。

助成による実践研究

長野市立松ヶ丘小学校教諭 宮澤 剛彦
松ヶ丘小学校には、子どもたちが親しんでいる裏山があります。四年生のときから、子どもたちは一人ひとりお気に入りの木を決め、木の観察を続けて

きました。山林火災があった裏山が、人々の働きにより再生してきていることを知った子どもたちは、自分たちでできる活動を考え、燃えた木の片付けなどを行いました。五年生では、裏山全体に目を向け、砂防ダムの見学などを通して、森林の働きを調べました。森林には気温を調整する働きがあると知った子どもたちは、気温調べで裏山は夏でもひんやりとしていることを実感し、アスファルト駐車場の気温の変化から都会のヒートアイランド現象も体験できました。

六年生では、小市全体の環境に視野を広げました。アカマツの気孔を使った空気汚染度調査では、子どもたちが調査にのめりこみ、興味深い結果が出ました。小市環境調査をまとめ、こどもエコクラブの壁新聞コンクールに応募しました。すると、県代表のクラブに選ばれ、こどもエコクラブ全国フェスティバル大会に代表者が参加させていただきました。

卒業にあたり、みんなが親しむことのできる裏山にしたいという願いを持ちました。この願い実現のために、助成金を利用していただきました。広場にベンチを置き、古くなった看板を書きかえまし



就職状況

就職部長 岩田 靖

本学部学生の就職支援については、教育学部同窓会からも各種の試験対策や講演会などにおいて講師役をご推薦いただくなど、日頃より大変お世話になっており、心より厚くお礼申し上げます。さて、以下の表に昨年度末の学部卒業生および大学院教育学研究科修了生の進路状況をまとめてみましたので、お知らせしたいと思います。

学部卒業生二六七名のうち、就職に進んだ者は一五二名、教職以外が五八名、進学が二九名(その他、臨時待ちを含む未定者が二八名)でした。このうち、教員養成課程(II学校教育教員養成課程・生涯スポーツ課程、教育カウンセリング課程の非教員養成課程を除く)の卒業生二二三名に占める教員就職率は六三・七%で、過去二、三年の数値とそれほど大きな変化はありませんでした。しかしながら、このデータは非常勤講師をも含めた採用率を示したものであることは、毎年のこの同窓会報をお読みになつていらっしゃる方にはお分かりいただいていることと思ひます。正規の採用率では二六・五%にまで落ち込んでしまふのです。

このような現象、数値は基本的には全国的な動向であり、何も我が学部のみの問題というわけではないのですが、とりわけ数年前からの長野県の教員採用数の落ち込みに影響を受けていると言えるかもしれません。

就職部会では採用試験の筆記模擬テスト、模擬集団面接や個人面接の実施等、就職支援活動を広げてきてはおりますが、是非、同窓会組織からも現役学生の就職活動に対するより一層のご協力をいただけたらと念願しております。

平成20年度卒業生・修了生 進路状況

Table with columns for '就職・進学別' (Employment/Advanced Study), '就 員 職 者' (Employment Status), '進 学 者' (Advanced Study), and '合 計' (Total). Rows include various departments like '臨床学校教育' and '教育学研究科'.

(注) () は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

就職率(学部)(進学者を除く) 88.24%
教員就職率(学部)(進学者を除く) 63.87%
教員養成課程卒業生に対する教員就職率 63.68%

信州大学教育学部同窓会

第二十二回通常総会(通知)

日時 平成21年 8月11日 (火)
午前10時より

会場 長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 平成20年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第二号議案 平成21年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第三号議案 第12期役員の変更について
6. 来賓紹介、代表挨拶
7. 閉会宣言

記念講演会：12時より
講師：高橋 基氏

祝賀懇親会：13時より

記念講演 (一般公開)

信州に住む鬼たち



長野県退職校長会長 高橋 基氏

昭和四〇年代、附属長野小学校に五年間お世話になった。その間、総合学習の実践研究をするよう仰せつかった。当時は、遊び、遊び込むことを大切に活動を展開した。

昭和四五年秋、一年生の題材は「鬼遊び」を取り上げた。室外では、「鬼ごっこ」や「かごめかごめ」などの「伝承遊び」を楽しんだ。子ども達の創作や新しいルールが加わり、遊びは多岐にわたった。室内では、鬼が登場する民話・伝説・童話の本を、図書館や家から持ち寄っては読み合った。鬼に対する親近感が増してきた。浜田廣介の『泣いた赤鬼』や松谷みよ子の『土佐の鬼』(後には『海にし

ずんだおに」となる)などを読み聞かせしたときには、子ども達は涙を流すほどに感動し、ますます鬼に惹かれていった。担任の私も、子ども達と共に鬼の世界にはまり込んだ。

この子達と別れた後も、私の頭から鬼が離れない。細々とではあるが、鬼にまつわる本を読んだり、鬼を表現する様々なグッズを集めたり、日本各地の鬼を訪ねたりした。

今回は、信州に限定し、この信州のあちこちに住まいし、今なお活躍している鬼たちを紹介したい。一口に鬼といっても、いろいろあることに目を向けていただければありがたいと思っている。

経歴

一九五二年 富士見町立落合小学校を振り出しに、野沢小学校、芹田小学校、本牧小学校、附属長野小学校、佐久中央小学校、立科中学校、白田小学校、伊那教育事務所(指導主事)、南牧北小学校(教頭)、附属松本小学校(副校長) 兼附属幼稚園(副園長)

一九九一年 坂の上小学校(校長)を最後に退職。退職後、学校法人信州学園佐久幼稚園(園長・六年間)、信濃教育会教育研究所(主任及び兼任所員・八年間)、現在、長野県退職校長会会長、全国連合退職校長会常任理事

ほか

事務局便り

○研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

また、本号の6ページ・同窓会情報の欄をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた場合は納入済みです。二重払いの場合にはお返しますが、振込手数料等がかかりますので全額返金はできません。

事務局連絡先

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30~16:30
http://taedu.shinshu-u.ac.jp
Email: kdousou@shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。